

大阪府議会決算委員会(02・11・21)

黒田まさ子府議(共産、枚方市選出)の高校統廃合、及び高南廃校問題発言要旨

傍聴記録 高南応援団(加藤)

1. 既には以降になる高校では、備品の異動準備などが進められ、生徒の心を逆なでしている。直ちに中止せよ。生徒の面前で、学校がなくなるんだと感じさせるようなことをやめなさい。(学事課長「作業は必要。3月の年度末は、入試等や4月準備で忙しい」)-それは学校の都合だ。子どもの気持ちを無視することだ。やめてほしい。高校統廃合は、子どもの入学の枠を狭めている。中学生の高校志望アンケートでは、経済的状况を反映して、公立志望が2~3%増えている。(学事課長-「高校受け入れは適切化、今後のことは、学教審に諮っているところだ。昼間の学校と言う枠で考えていきたい。」)
2. 大阪の高校進学率は全国で何番目か?(学事課長「国の数では、47注で30数番目と承知、コンマの違いである。」)私の数字では40位である。私学にいけない子どもが増えている。公立志望が増えている。守口・門真では3.61%、八尾では2%。門戸を広げるべきではないか?
3. PTAの活動を抑制する指導をしていると言うが事実か?PTAが教育行政や学校のあり方について、ものをいってはアカンのですか?(学事課長「PTAの活動は不偏不党であるべきだと校長に言った。PTA名簿を出さないようにとも。」)重大な問題だ。PTAとして、学校の中だろうと外であろうと教育行政に物をいう、どこに問題があるかPTAや父母が言うのは当然だ。
4. 高槻南高校の問題であるが、6月27日、市議会意見書が与野党を超えて、ほぼ満場一致で採択されている。

これに対して府は、どう対応しているのか?

高校改革課長 高槻市教委、市長公室と今後の対応を検討している。

どういう対応か?

島上の問題。総合計画の問題である。総合計画の中でどう動いていくのか?

いい方向での計画変更はあるのか?

課長 これまでの経過、今年の経過を見ると、その計画については合致するものではない。

市議会意見書を踏まえて、よく考えて対応してください。貴方たちのやっている再編整備で、どれだけ子どもの心を踏みにじっているか、その自覚はありますか?

課長 いろんなかたちで表明されている生徒の想いは理解しているが、再編整備計画は正しい。今後趣旨を良くPRしていきたい。

高槻南高校の在校生の60%、OB38人が、人権救済の申立てをした。申立書を読み上げる。その中のクラブの生徒の訴えも読み上げる。宮原府議への生徒の手紙も読み上げる。

「この広い運動場で放課後、どれほどの生徒が汗を流し、涙を流してがんばっているか。私たちの人生を壊すのですか。私たちが放課後どんな活動をしているか一度も見ることもなく、私たちがどれほど傷ついているか、心の痛みがわかりますか」 黒田議員は、高槻南高校の在校生の6割と卒業生38人の計526人が大阪弁護士会に申し立てた人権救済申立書に添えられた3人の生徒・OBの怒り、叫びも紹介し、「子どもの心情を理解し、その発露を助けるのが教育ではないのか」と迫りました。

予備校で、配布されたと言う学校側のピラでは、「新しい学校は、高槻南や島上と全く関係ない」といっている。伝統を引き継ぐと言うのはウソだったのですか？ どうですか？

課長 申し入れ、申立てを受けている。高南は、クラブ活動では大変積極的な学校である。あくまでも伝統を継承・発展できるようにしていった。思いは十分理解指定しているので新しい学校づくりに全力を尽くす。

高南の球部の女子マネージャー、バトミントン部、陸上部OBなどの訴えを読み上げる。2校合同でというが無責任だ。これらの思いは、統廃合されるすべての学校の生徒の想いだ。枚方西、4年間で2000の署名が集まった。第2期以降の統廃合は止めるべきだ。府教育委員が、本日の決算委員会に参加していないのは残念だ。教育委員は、直接、学校に行き、生徒は学校関係者の意見を聴くべきだ。どうしてできないのか？

課長 教育委員会としては、適切に対応している。役割分担して、関係者の意見や要望を聴き要望等は、府教育委員にすべて報告している。

いったん高南廃校は、凍結していただきたい。そういう話はないか？

課長 着実に推進していきたい。

凍結する気はないか？ 残念だ。今こそ30人学級が必要だ。そうすれば統廃合が必要ない。

以上

府議会決算委 府立高廃止凍結せよ

黒田議員生徒の心の痛み紹介大阪府教委が生徒や保護者、府民の願いをふみにじって府立高校統廃合（高校つぶし）を強行している問題で、日本共産党の黒田まさ子府議は、21日の府議会決算特別委員会で、昨年度廃校が決定された高槻南高校の存続を求める生徒の声を突きつけ、「統廃合計画を凍結し、子どもや地域の声に耳を傾け、見直しせよ」

と強く求めました。府教委は2008年までに20校の府立高校つぶしを計画し、順次統廃合を強行しています。また、今年度統廃合の対象校とされた枚方西高校に隣接する自治会4日間で2千人の署名を集めたものを含めて府民団体が六万八千余の反対署名を提出したこと、不況のなかで公立高校への志望が増え、統廃合された守口市や門真市、八尾市では中学卒業時で進路未定の生徒が府平均より多いこと、全国で30人学級がすすんでいることを示し、「生徒や府民の声に耳を傾けへ統廃合計画は撤回すべきだ」と主張しました。府は、「生徒の思いは十分理解している」といいながら、「教育の質的向上」などとして統廃合推進に固執しました。

新校準備 在校生へ配慮要求

府教委が強行する府立高校統廃合で、廃校が決定され、学年進行で生徒が減っている学校で生徒の気持ちを無視した新校への準備が進められていることが21日の府議会決算委員会でわかりました。日本共産党の黒田まさ子議員が指摘したものの、黒田議員はへ在校生への配慮を求めました。

黒田議員によると、現在3年生しかいない門真南高校では、吹奏楽部の2人の部員が卒業式に立派に演奏したいと練習しているのに、楽器に突然、新校名の「なみはや」と書いたラベルが張られました。「なんでそんなことをするのか」との抗議に名前は消されましたがラベルは残ったまま。

玉川高校では、卒業生が残した記念樹が順次引き抜かれ、備品には色違いのラベルが張られるなど、引っ越しの作業を目の当たりにしながら勉強しています。

2年生と3年生が通学している八尾南高校では、食堂が閉鎖され、携帯電話でピザの配達を頼む生徒もいます。野球のバックネットも撤去されました。

黒田議員は、「学校がなくなるということを子どもたちの目の前であらわす行為は、立派に卒業していこうという子どもたちの気持ちを逆なでするもの。もっと配慮すべきだ」と指摘。府は「府民の財産を有効に活用する」など冷たい答弁に終始しました。

(11・22AK)